

平成27年10月5日

教育委員会 指導部

## 所管事務調査（学力向上）における資料

### 1 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の分析

- (1) 調査結果の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～2
- (2) 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 平均正答数からみた本市の児童生徒数の経年変化・・ 4～5
- (4) 全国より無解答率が高い問題数の比較・・・・・・・・ 6～7
- (5) 各教科の分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～9
- (6) 家庭学習の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10～11
- (7) メディアとの接触状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (8) 調査結果の活用について・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (9) 学校における教育活動について・・・・・・・・・・ 14
- (10) 各校の効果的な取組事例・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

### 2 学力向上の取組（今後の取組事例）

- (1) 学力向上構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (2) 北九州市学力状況調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (3) 学力向上学校訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- (4) 授業改善リーフレット・・・・・・・・・・・・・・・・ 19～22
- (5) 子どもひまわり学習塾・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

## 1 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の分析

# (1) 調査結果の概況

平成27年9月3日 教育委員会指導第一課

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査結果について（概況）

平成27年4月に市立の全小・中学校において全国学力・学習状況調査を実施した。

調査の概況は以下のとおりである。

### 1 実施学年・調査内容

◇ 実施学年 市立の全小学校 第6学年（130校） 市立の全中学校 第3学年（62校）

◇ 検査内容

①教科に関する調査 小学校…国語・算数・理科 中学校…国語・数学・理科

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

### 2 調査日 平成27年4月21日（火）

### 3 結果の概況

**小学校** ・ 「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として平成24年度以降の経年比較をすると、国語Bと算数Aは上昇傾向、国語Aと算数Bは一進一退である。昨年度と比較すると、国語A、Bと算数Bは上昇し、算数Aは同程度、理科は平成24年度と比較すると下降した。

**中学校** ・ 「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として平成24年度以降の経年比較をすると、全ての教科・区分において一進一退である。昨年度と比較すると、国語A、Bと数学Aは上昇、数学Bは昨年度と同程度、理科は平成24年度と比較するとやや下降した。

## 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

### ○小学校6年

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
<b>27年度本市平均正答率</b>	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
27年度全国平均正答率	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-2.9(95.9%)	-3.3(95.0%)	-1.9(97.5%)	-1.3(97.1%)	-3.5(94.2%)
<b>26年度本市平均正答率</b>	69.1	52.6	76.2	55.4	
26年度全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2	
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-3.8(94.8%)	-2.9(94.8%)	-1.9(97.6%)	-2.8(95.2%)	
<b>25年度本市平均正答率</b>	60.3	46.3	74.6	56.5	
25年度全国平均正答率	62.7	49.4	77.2	58.4	
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-2.4(96.2%)	-3.1(93.7%)	-2.6(96.6%)	-1.9(96.7%)	
<b>24年度本市平均正答率</b>	79.4	52.2	70.4	56.1	59.7
24年度全国平均正答率	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-2.2(97.3%)	-3.4(93.9%)	-2.9(96.0%)	-2.8(95.2%)	-1.2(98.0%)

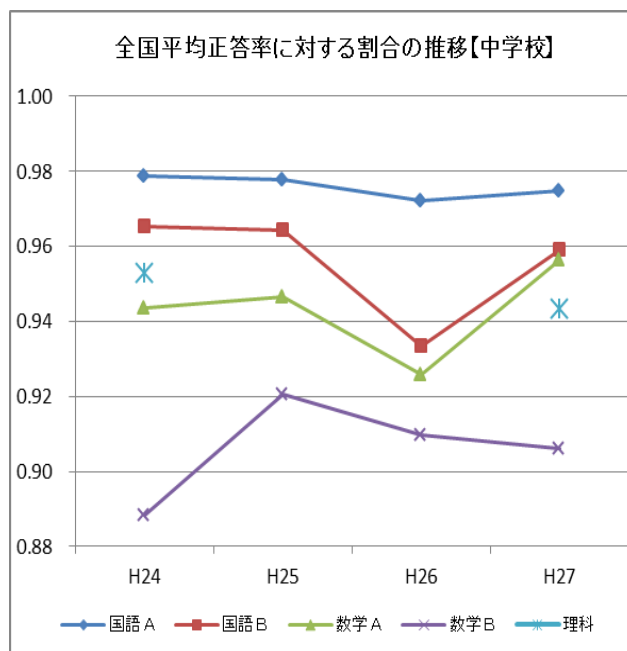
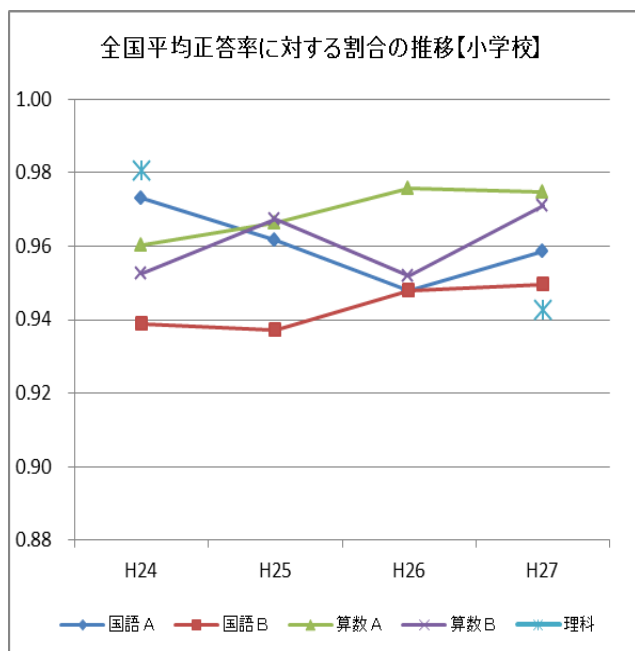
### ○中学校3年

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
<b>27年度本市平均正答率</b>	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
27年度全国平均正答率	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-1.9(97.5%)	-2.7(95.9%)	-2.8(95.7%)	-3.9(90.6%)	-3.0(94.3%)
<b>26年度本市平均正答率</b>	77.2	47.6	62.4	54.4	
26年度全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8	
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-2.2(97.2%)	-3.4(93.3%)	-5.0(92.6%)	-5.4(91.0%)	
<b>25年度本市平均正答率</b>	74.7	65.0	60.3	38.2	
25年度全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5	
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-1.7(97.8%)	-2.4(96.4%)	-3.4(94.7%)	-3.3(92.0%)	
<b>24年度本市平均正答率</b>	73.5	61.1	58.6	43.8	48.6
24年度全国平均正答率	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0
<b>全国平均正答率との差と割合</b>	-1.6(97.9%)	-2.2(96.5%)	-3.5(94.4%)	-5.5(88.8%)	-2.4(95.3%)

※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。

※ 全国平均正答率は、平均正答数を百分率で表示したもの（平均正答数/設問数）であり、全国（公立）の数値である。

## 平成24年度から平成27年度までの各教科・区分の経年変化 (全国平均正答率を1.00とする。)



### 各教科・分類の状況（本年度の正答率に見られる顕著な状況）

校種	教科区分	正答率が高い問題	正答率	正答率が低い問題	正答率
小学校	国語A	漢字を読む（招く）	96.8	文の主語を捉える	45.2
		漢字を読む（承知）	96.4	表現の工夫を捉える	15.0
	国語B	中心となる語や文を捉える	83.5	内容を整理しながら記事を書く	32.2
		文章の内容を的確に押さえ要旨を捉える	75.3	文章と図を関連付け、自分の考えを書く	37.9
	算数A	28 + 72の計算	98.5	分度器の目盛りを読む	55.1
数量の関係を図と関連付ける		87.8	円の性質の理解	46.3	
算数B	平行四辺形の性質	94.1	基準量を求める	14.2	
	目的に応じた買い物の仕方	62.1	分割された面積が等しくなる理由を書く	10.5	
理科	水蒸気の理解	79.2	グラフを考察し、内容を書く	25.1	
	グラフの考察、分析し選択	82.2	顕微鏡の操作方法の理解	30.3	
中学校	国語A	漢字を読む（載る）	96.6	表現の技法の理解	54.1
		適切な語句の選択（気象予報士）	96.9	適切な語句の理解（たなびく雲）	50.9
	国語B	効果的な資料を作成し、活用して話す	85.1	資料から自分の考えを書く	18.1
		表現の工夫について考えをもつ	85.8	根拠を明確にして考えを書く	28.2
	数学A	12 : 9と等しい比を選択	93.5	数量の関係を文字式に表す	19.8
5X - Xの計算		83.9	証明の必要性和意味の理解	24.0	
数学B	考察の対象を明確に捉え立式	72.5	結果を数学的な表現様式を用いて説明	10.1	
	事象を数学的に表現し、意味の解釈	64.0	問題解決の方法を説明	17.5	
理科	塩化ナトリウムを化学式で表す	82.1	雲の成因を正しく説明	9.9	
	天気の記号から風力を読み取る	72.4	実験の計画	26.0	

## (2) 成果と課題

### 平成27年度全国学力・学習状況調査における 教科に関する調査結果から見られる成果と課題

【成果1】○ 小中学校とも、昨年度と比較すると多くの教科・区分で改善された。

小学校	国語A、B、算数Bは上昇	算数Aは同程度
中学校	国語A、B、数学Aは上昇	数学Bは同程度

【成果2】○ 全国平均正答率を上回る学校数が多くなった。

小学校	平成26年度	39校	→	平成27年度	44校
中学校	平成26年度	12校	→	平成27年度	13校

※ 国語、算数（数学）の平均正答率の合計による比較

【成果3】○ 中学校における、下位層の底上げが進んだ。

全国平均正答率より、10ポイント以上低い学校数の減少。

国語A	平成26年度	6校	→	平成27年度	1校
国語B	平成26年度	11校	→	平成27年度	2校
数学A	平成26年度	19校	→	平成27年度	8校
数学B	平成26年度	17校	→	平成27年度	8校

〈課題1〉● 理科については、全国平均正答率と比べると差が大きくなった。

小学校	平成24年度	98.0%	→	平成27年度	94.2%
中学校	平成24年度	95.3%	→	平成27年度	94.3%

※ 全国平均正答率を100%とする。

〈課題2〉● 小学校国語Bでは、二極化の傾向が強くなった。

全国平均正答率より、10ポイント以上高い学校数の増加	平成26年度	3校	→	平成27年度	7校
全国平均正答率より、10ポイント以上低い学校数の増加	平成26年度	18校	→	平成27年度	26校

(3) 平均正答数からみた本市の児童生徒数の経年比較（小学校）

平成26年度

〔小学校 国語A〕 15問

全国平均正答数 10.9 問	児童数
11問以上	4,374
10問以下	3,713

国語 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	10.4 / 15	69.1
全国(公立)	10.9 / 15	72.9

〔小学校 国語B〕 10問

全国平均正答数 5.5 問	児童数
6問以上	3,942
5問以下	4,147

国語 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	5.3 / 10	52.6
全国(公立)	5.5 / 10	55.5

〔小学校 算数A〕 17問

全国平均正答数 13.3 問	児童数
14問以上	4,046
13問以下	4,042

算数 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	13.0 / 17	76.2
全国(公立)	13.3 / 17	78.1

〔小学校 算数B〕 13問

全国平均正答数 7.6 問	児童数
8問以上	3,995
7問以下	4,095

算数 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	7.2 / 13	55.4
全国(公立)	7.6 / 13	58.2

平成27年度

〔小学校 国語A〕 14問

全国平均正答数 9.8 問	児童数
10問以上	4,183
9問以下	3,583

国語 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	9.4 / 14	67.1
全国(公立)	9.8 / 14	70.0

〔小学校 国語B〕 9問

全国平均正答数 5.9 問	児童数
6問以上	4,394
5問以下	3,362

国語 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	5.6 / 9	62.1
全国(公立)	5.9 / 9	65.4

〔小学校 算数A〕 16問

全国平均正答数 12.0 問	児童数
13問以上	3,897
12問以下	3,869

算数 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	11.7 / 16	73.3
全国(公立)	12.0 / 16	75.2

〔小学校 算数B〕 13問

全国平均正答数 5.9 問	児童数
6問以上	3,936
5問以下	3,822

算数 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	5.7 / 13	43.7
全国(公立)	5.9 / 13	45.0

平成24年度

〔小学校 理科〕 24問

全国平均正答数 14.6 問	児童数
15問以上	4,419
14問以下	3,918

理科	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	14.3 / 24	59.7
全国(公立)	14.6 / 24	60.9

平成27年度

〔小学校 理科〕 24問

全国平均正答数 14.6 問	児童数
15問以上	3,683
14問以下	4,081

理科	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	13.8 / 24	57.3
全国(公立)	14.6 / 24	60.8

平均正答数からみた本市の児童生徒数の経年比較（中学校）

平成26年度

平成27年度

〔中学校 国語A〕 32問

〔中学校 国語A〕 33問

全国平均正答数 25.4 問	生徒数
26問以上	4,150
25問以下	3,327

全国平均正答数 25.0 問	生徒数
26問以上	3,997
25問以下	3,582

国語 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	24.7 / 32	77.2
全国(公立)	25.4 / 32	79.4

国語 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	24.4 / 33	73.9
全国(公立)	25.0 / 33	75.8

〔中学校 国語B〕 9問

〔中学校 国語B〕 9問

全国平均正答数 4.6 問	生徒数
5問以上	3,496
4問以下	3,987

全国平均正答数 5.9 問	生徒数
6問以上	4,707
5問以下	2,885

国語 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	4.3 / 9	47.6
全国(公立)	4.6 / 9	51.0

国語 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	5.7 / 9	63.1
全国(公立)	5.9 / 9	65.8

〔中学校 数学A〕 36問

〔中学校 数学A〕 36問

全国平均正答数 24.3 問	生徒数
25問以上	3,520
24問以下	3,967

全国平均正答数 23.2 問	生徒数
24問以上	3,766
23問以下	3,820

数学 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	22.5 / 36	62.4
全国(公立)	24.3 / 36	67.4

数学 A	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	22.2 / 36	61.6
全国(公立)	23.2 / 36	64.4

〔中学校 数学B〕 15問

〔中学校 数学B〕 15問

全国平均正答数 9.0 問	生徒数
9問以上	3,762
8問以下	3,722

全国平均正答数 6.2 問	生徒数
7問以上	2,956
6問以下	4,635

数学 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	8.2 / 15	54.4
全国(公立)	9.0 / 15	59.8

数学 B	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	5.7 / 15	37.7
全国(公立)	6.2 / 15	41.6

平成24年度

平成27年度

〔中学校 理科〕 26問

〔中学校 理科〕 25問

全国平均正答数 13.3 問	生徒数
14問以上	3,592
13問以下	4,232

全国平均正答数 13.3 問	生徒数
14問以上	3,407
13問以下	4,189

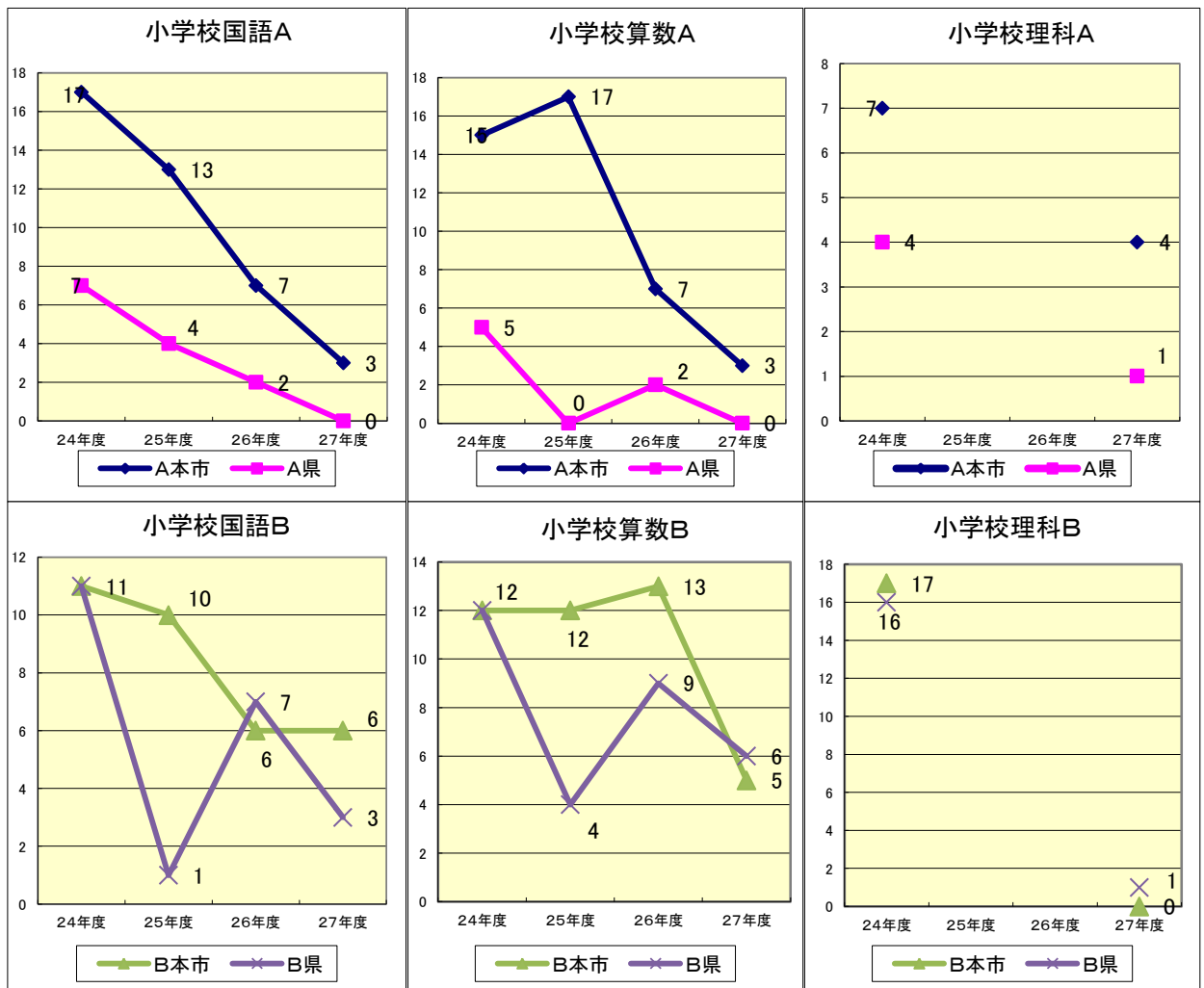
理科	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	12.6 / 26	48.6
全国(公立)	13.3 / 26	51.0

理科	平均正答数	平均正答率 (%)
北九州市教育委員会	12.5 / 25	50.0
全国(公立)	13.3 / 25	53.0

(4) 全国より無解答率の高い問題数の比較（小学校）

全国学力・学習状況調査結果より

		国語				算数				理科	
		H24	H25	H26	H27	H24	H25	H26	H27	H24	H27
A問題	本市	17	13	7	3	15	17	7	3	7	4
	県	7	4	2	0	5	0	2	0	4	1
	問題数	17	18	15	14	19	19	17	16	7	9
B問題	本市	11	10	6	6	12	12	13	5	17	0
	県	11	1	7	3	12	4	9	6	16	1
	問題数	11	10	10	9	13	13	13	13	17	15

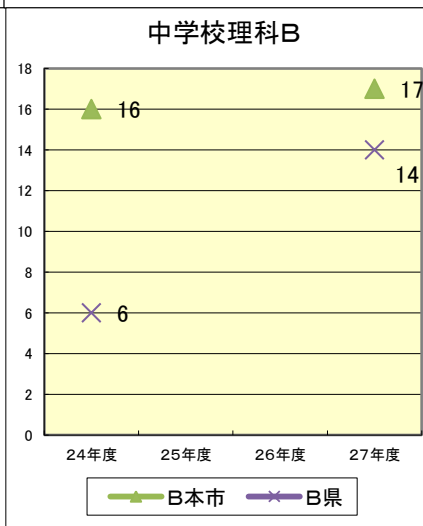
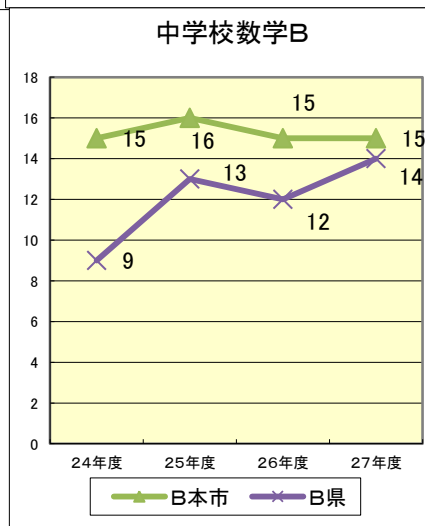
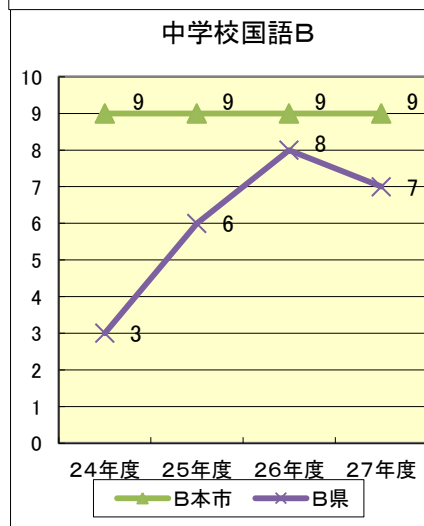
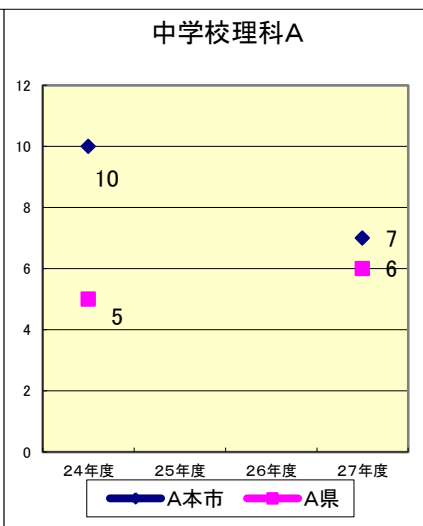
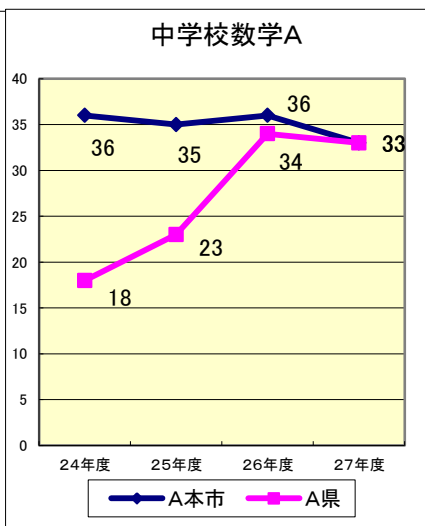
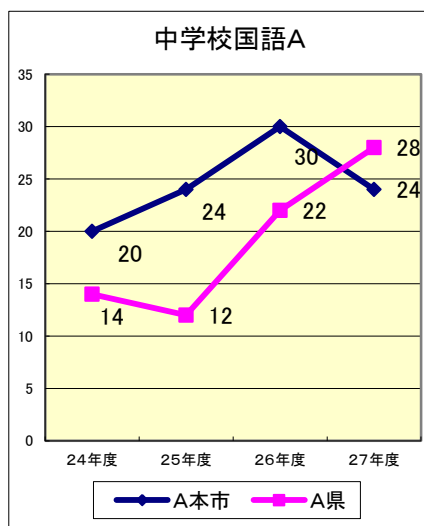




全国より無解答率の高い問題数の比較(中学校)

全国学力・学習状況調査結果より

		国語				数学				理科	
		H24	H25	H26	H27	H24	H25	H26	H27	H24	H27
A問題	本市	20	24	30	24	36	35	36	33	10	7
	県	14	12	22	28	18	23	34	33	5	6
	問題数	32	32	32	33	36	36	36	36	10	7
B問題	本市	9	9	9	9	15	16	15	15	16	17
	県	3	6	8	7	9	13	12	14	6	14
	問題数	9	9	9	9	15	16	15	15	16	18



## (5) 各教科の分析結果

※ ○…成果（全国平均正答率を上回っているもの、及び昨年度より改善が見られるもの。）

●…課題（全国平均正答率を下回っているもの、及び改善の必要があるもの。）

### ■ 小学校

#### 【国語A】

- 漢字を正しく読むこと「信念」
- まとまりごとの内容をとらえたり中心となる言葉に着目したりする

- 漢字を正しく書くこと「巢」「病院」
- 目的に応じて、適切に引用する

#### 【国語B】

- 「書くこと」領域の平均正答率が上昇（全国比 H27…—3.5 H26…—5.1）
- 「記述式」の正答率が上昇（全国比 H27…—3.1 H26…—5.1）

- 新聞の特徴を理解し、目的や意図に応じて紙面全体を構成する
- 文章と図表やグラフなどを関係付けて、自分の考えをまとめる

#### 【課題に対する今後の取組】

- ・ 国語科以外の時間でも既習漢字を必ずつかうことの徹底、国語辞典・漢字辞典の利用
- ・ 書く活動の際、必ず、目的や意図、条件、観点などを児童が明確にもつことができるような指導をすること

#### 【算数A】

- 「数と計算領域」の計算問題において4問中、3問が全国平均を上回っている。
- 小数の加法における計算の確かめの方法や末尾のそろっていない小数の計算。
- 分度器を用いて180°より大きい角の大きさを求める。

#### 【算数B】

- 全国と平均との差が、昨年度より1.5ポイント縮まっている。  
（H26…—2.8ポイント → H27…—1.3ポイント）
- 割合の問題は、正答率は低い（14.2%）が、全国平均（13.1%）を上回っている。
- 示された情報を基に、比較量と割合から基準量を求める。
- 分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する。

#### 【課題に対する今後の取組】

- ・ 計算の結果を見積る技能や確かめる態度に課題が見られるため、授業の中に積極的に取り入れるように指導・助言を行う。また、1時間の授業に習熟する時間の設定の継続指導を行う。
- ・ 系統的な図の指導の継続指導。答えを導き出した過程や自分の考えを言葉、式、図などで表現し、説明する活動の設定を行うように指導・助言していく。

#### 【理科】

- 実験器具の名称の理解（メスシリンダー）
- 対象や目的に応じた観察器具の適切な操作
- 科学的な言葉や概念の理解
- 見通しをもった実験計画の立案

#### 【課題に対する今後の取組】

- ・ 実験器具操作の意味理解を伴った観察・実験を充実し、技能の習得を図る。
- ・ 科学的な言葉の意味を的確にとらえ、日常生活に当てはめて考えられるようにするとともに、獲得した知識や概念を用いて、現象を説明する活動を行う。

## ■ 中学校

### 【国語 A】

- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う力  
(H26・全国正答率を上回っていた設問は1問〈7問中〉 → H27・3問〈6問中〉。)
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する力 (全国正答率との差 H26: -1.7 H27: -1.0)
- 文脈に即して漢字を正しく読む、書く力 (全国の正答率との差・読み「詳細」 -7.7)
- 単語の類別について理解する力 (品詞の知識)  
(全国正答率との差・「青い」と「青さ」の違い -6.9)

### 【国語 B】

- 表現の工夫について自分の考えをもつ。(H26・全国正答率との差・-4.5。H27・-2.7)
- 複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを書いたり、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする力 (全国正答率との差・-4.9) H27・-1.0)

#### 【課題に対する今後の取組】

- ・ 漢字の指導を授業中に必ず行う (部首名や筆順、語句等の確認)。
- ・ 文章の構成を踏まえたり、図や表と関連付けたりして内容を捉える授業や、資料相互の関連性を整理したり、それらの資料と自分の考えとのつながりを確認したりする授業を行う必要があることを、全員研修会等で指導・助言していく。

### 【数学 A】

- 正答数分布グラフが昨年度よりも全国や県の分布に近づいてきており、全体的に底上げが図られている。
- 基本的な作図の図形の対称性 (本市 H27:65.3% 全国 H27:59.1% 全国比+6.2%)
- 数量の関係を文字式に表す数学的な技能、及び証明の必要性の意味

### 【数学 B】

- 数学的な見方や考え方、記述式の問題の平均正答率が、昨年度と比較して全国との差が若干縮まった。見方や考え方 (H27:-3.9 H26:-5.5) 記述式 (H27:-3.9 H26:-6.7)
- 結果を数学的な表現を用いて説明や問題解決する方法を数学的に説明することなど
- 問題の条件を変えて発展的に考えること

#### 【課題に対する今後の取組】

- ・ 基本的な用語や性質、定義など、いつでも振り返ることができるノートの工夫。授業で行い、家庭学習や宿題として必ずまとめさせる。
- ・ 授業の中でも、問題の条件を変えて考えることや結果からさらに分かること、気付くことなどを生徒に聞き、そのように考える習慣をつける。また、説明の基本的な仕方を教え、授業の中で活用する。

### 【理科】

- 化学的領域の平均正答率が上昇 (全国比 H24:-2.9ポイント → H27:-0.9ポイント)
- 全国正答率を上回った問題数が増加 (H24:1問〈26問中〉 → H27:3問〈25問中〉)
- オームの法則を使って、抵抗の大きさを計算で求める。
- 自然の事物・現象から問題を見だし、課題を設定すること。
- 課題に対して適切な (課題に正対した) 実験を計画することや考察すること。

#### 【課題に対する今後の取組】

- ・ 観察や実験を通して、基礎的・基本的な知識や技能を定着させること。
- ・ 課題を解決するために観察・実験を行い、その結果を基に分析して解釈し表現するという探究の課程を意識して、繰り返し授業で取り組むことが大切である。このことを要請訪問や全員研修会等で指導・助言していく。

## (6) 家庭学習の状況

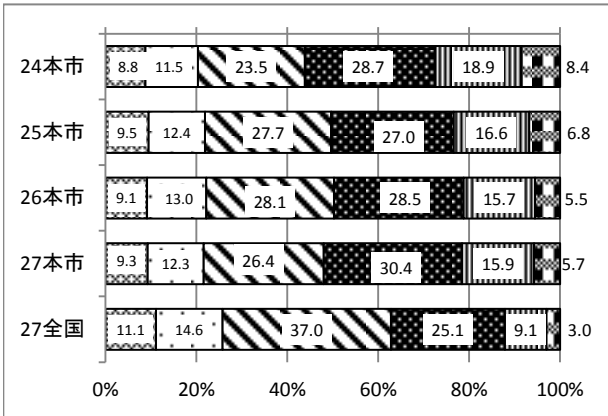
児童生徒質問紙調査結果より

・家庭学習時間については、大きな変化は見られず、1時間以上家庭で勉強する児童生徒を全国と比較すると、平日、休日ともに10%以上の差がある。  
 ・家庭での学習方法や内容については、中学校では改善傾向が見られるものの、全国と比較すると、小中学校ともに改善しなければならない点が多い。

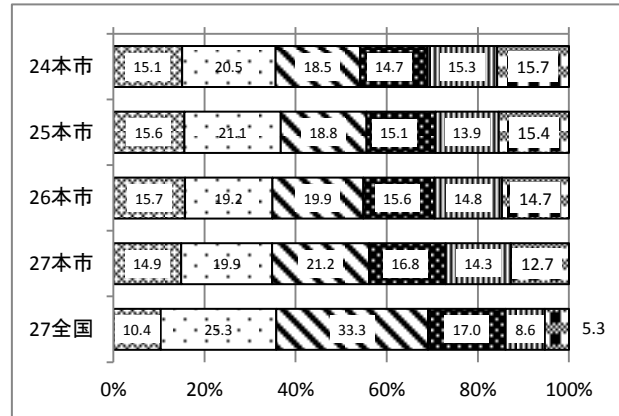
1 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



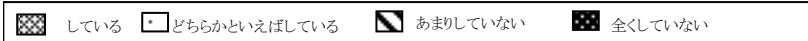
【小学校】



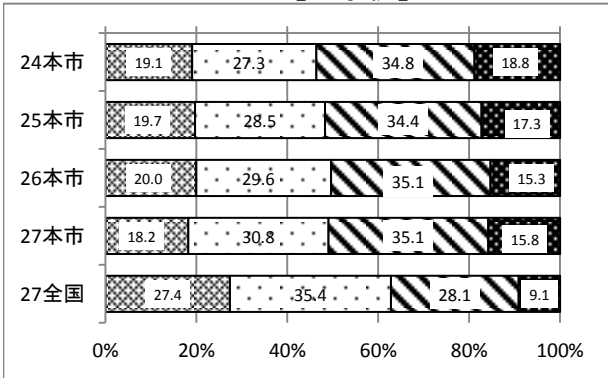
【中学校】



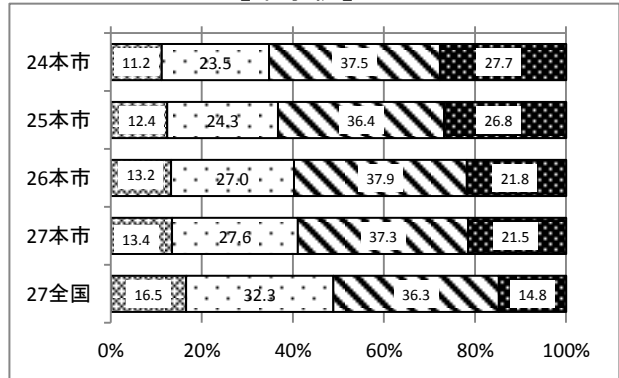
2 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



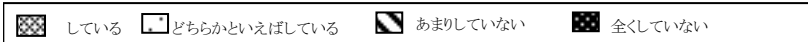
【小学校】



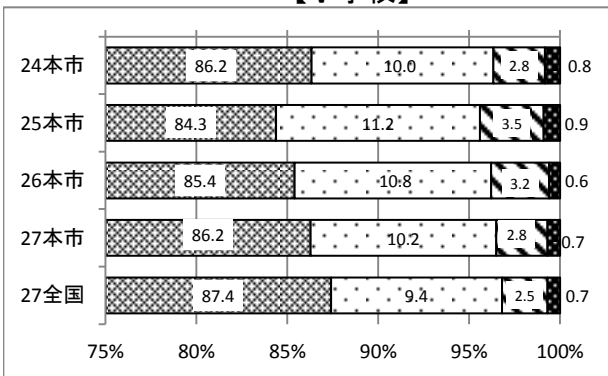
【中学校】



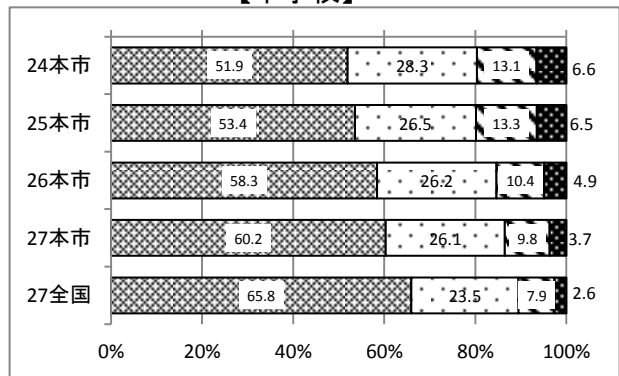
3 家で、学校の宿題をしていますか



【小学校】



【中学校】



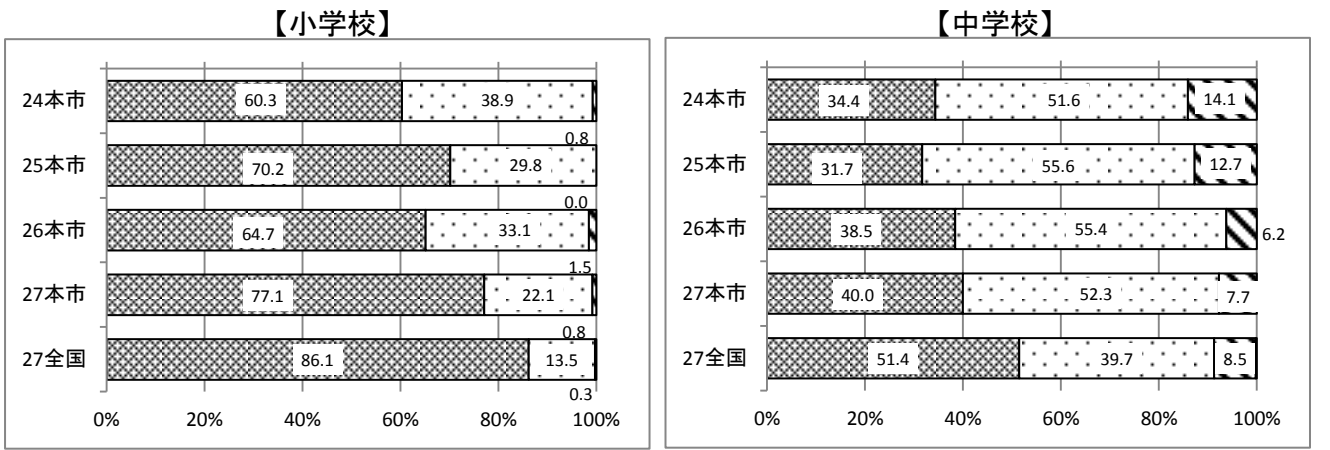
# 前年度までの家庭学習に関する教師の指導について

学校質問紙調査結果より

昨年度に比べ、家庭学習について、児童生徒や保護者に対する働きかけや取組が改善され、その成果が徐々に反映されている。

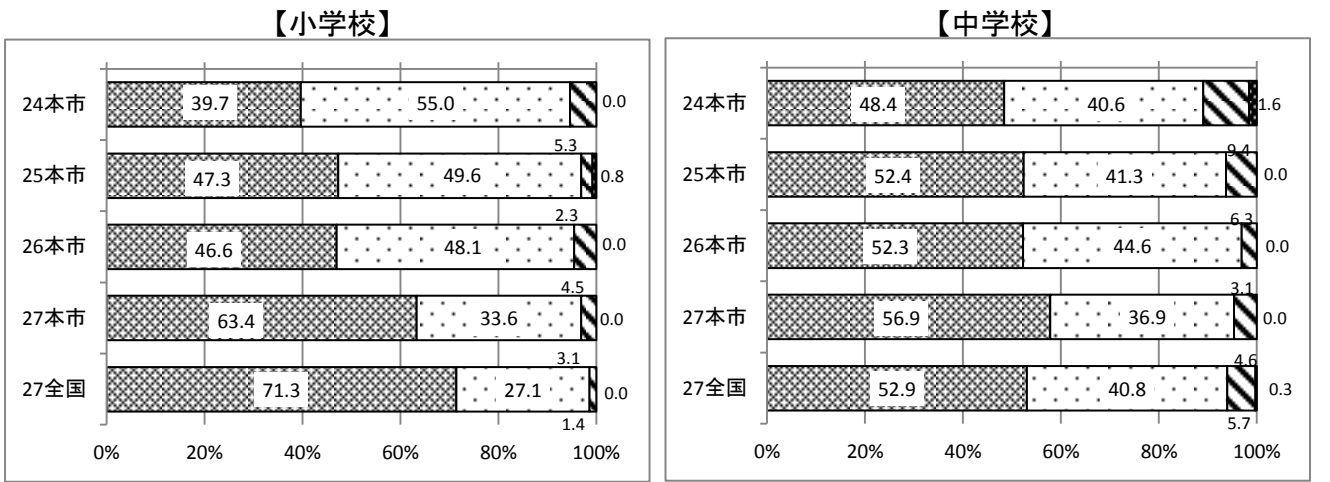
1 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか

よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない



2 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数(数学)の指導として、児童に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導しましたか

よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない



3 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語/算数共通)

よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない

